

かわかみ ミネルバ通信

佐賀県教育センター
平成8年1月31日

《巻頭言》

研修の精選と体系化

佐賀県教育センター 次長 副 島 利 彦



今、学校をとりまく教育環境の変化はめまぐるしいものがあり、教育に対する社会的な期待や要請は一層高まり、学校教育の直接の担い手である教職員の資質能力の向上が強く求められています。そのために、教職員研修の整備を図ることは緊要の課題となっています。

本県では、県教育センターを中心とした教職員研修の体系的整備を図るために、平成6・7年度の2年間「佐賀県教育センター機能拡充について」の検討委員会を設け、審議を重ねてきました。その概要は次のとおりです。

1 研修の精選

県教育委員会では、社会の変化に対応して必要とされる研修を行っていますが、類似した研修が他の機関でも実施されるなど研修全体の見直しが必要となっています。また、学校週5日制の進行等に伴い児童生徒との触れ合う時間を確保する観点からも、研修日数や内容の改善が求められています。

検討委員会では、県教育委員会、教育事務所、教育センターそして市町村教育委員会が実施している研修の実態を調査すると共に県内全ての学校の教職員の年間を通した研修への参加状況や教職員研修に関するアンケート調査を行い、研修を精選し改善を図りました。

なお、センター講座についても1日講座を設定したり、教職員が学校に居ながらにして研修を受けることができる情報システムを媒

体にした分散型の研修などについて検討を行いました。

2 研修の体系化

県教育委員会が行っている研修は、基本研修、専門別研修、特別研修の3つに区分できます。基本研修は教職員として必ず身に付けて欲しいことを内容とする研修で経験年数別研修、職務別研修、課題別研修があり、専門別研修は教育センター講座で代表されるように学校や個人の教育課題に応えるための研修で、教科別研修、教科外研修があります。特別研修は、洋上研修や中央研修、海外研修など国内外へ長期にわたって派遣する研修です。

全ての研修をこの区分にあてはめ、各研修の関連がどうなっているかを典型的に整理し、調整を図ったところです。

3 ライフステージに対応した研修

上記の研修区分をたて糸とすれば、よこ糸にあたる部分です。教職員としての資質能力は教職生活を通じて次第に形成されていくものであり、すべての教職員がライフステージの中で経験と職能に応じて適切な時期に必要な研修の機会が得られるよう、職能成長段階に応じた研修の体系的な整備を図りました。

教職員研修の中核として、教育センターが果たすべき役割の重要性が求められており、所員一同、意を新たにしているところです。

子供にやる気と自信を持たせる指導と評価

所員 中 村 和 彦



はじめに

生活科の全面実施から4年が過ぎようとしている。小学校では戦後初の教科の改廃であり、新設された生活科は、何かと話題を呼んだ。本センターでは、平成2年度より生活科講座を開講し、現在まで約700名の先生方に受講していただいた。他の機関等の研修の成果も含めて、生活科の趣旨や指導の在り方は、各学校に着実に浸透してきたのではないだろうか。

1 生活科の学習指導と評価の考え方

生活科は、順番をつける教育を求めている。複数の物差しで、その子のよさを見だし、それをバネにしてよりよく育てようとしているのである。そこで、生活科の学習指導と評価で大切なことは、子供たちに自分のよさや取り柄に少しでも気付かせることである。

2 指導から支援へ

生活科での教師の役割は、まず、子供が自己実現の充実感を味わうことができるような時間や場を設定することである。次に、子供の思いや願いをしっかりと受け止め、活動を温かく見守り、時には、励ましの言葉をかけるなど、一人一人が成長するのを支え、手をさしのべることである。このような教師の指導を支援と呼んでいる。

3 評価の前に支援の工夫を

その子らしさやよさが見えてくるためには、まず、単元の目標に基づいた以下のような支援の工夫が大切である。それに付随して、評価計画を作成すべきである。

環境構成による支援

- ① ゆとりある指導計画の作成
- ② 活動を促す場作り

コミュニケーションによる支援

- ① 思いを受容し認める
- ② 試行錯誤を見守り待つ
- ③ 感動を共有する
- ④ 気付きを全体へ広げ深める
- ⑤ 活動や気付きを促す助言や援助

4 生活科の評価の特色

生活科の学習で評価を行う目的は、他の教科と同様に、子供の育ちをとらえることと、指導の見通しをもつためである。それとともに、子供の意欲づけや自信の向上に生かすことが大切である。

生活科の評価の特色として、以下の3点があげられる。

- ① 具体的な活動や体験の広がりや深まりを評価する。
- ② 一人一人に即して評価をする。
- ③ 実践的な態度の評価を重視する。

5 評価の手順

- ① 年間指導計画を基に単元を決定
- ② 単元目標の設定と目標分析
- ③ 単元構成・指導（活動）計画の作成
- ④ (小) 単元の観点別目標を設定
- ⑤ 活動レベルの評価項目の設定と評価計画表・ふりかえりカードの作成
- ⑥ 本時案に評価方法・場面を設定
- ⑦ 授業の実践（教師観察・自己評価等）
- ⑧ 評価一覧表（補助簿）への書き込み
- ⑨ 次時の指導に生かす

6 評価の方法

生活科の評価では、長期的な見通しに立って、継続的に子供の意欲や活動とその変容を見取ることが大切である。従来の教科で行われてきたペーパーテストは、生活科の評価に馴染みにくいと考える。それは、ペーパーテストは、知識・理解の評価には有効な方法の一つであるが、前述した生活科の評価の特色をチェックできないと考えるからである。

そこで、ペーパーテストに代わる評価方法として次のような方法が考えられる。

- ① 教師による評価
観察法、質問紙法、作品分析法、面接法
- ② 子供による評価
自己評価法、話し合い、相互評価法
- ③ 家族や第三者による評価
観察法、質問紙法

7 指導と評価の実際（資料提供：有田小学校）

「ドキドキ町たんけん」(2年生)

(1) 単元の目標

地域の商店や公的機関等の探検を通して、そこで働く人々と適切に対応しながら意欲的に関わることができるようにする。

(2) 観点別目標

- ・ 自分が住んでいる地域の様子に関心をもち、地域の人々と進んで関わりがもてるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・ 町探検で発見したことを絵や文などに工夫して表現できるようにする。(思考・表現)
- ・ 自分と町の人々との関わりや、町で働いている人々の様子に気付くことができるようにする。(気付き)

(3) 評価計画 (11時間)

段階	主な活動(○時数)	関心・意欲・態度	思考・表現	気 付 き
であう	・校区内にあるいろいろな店や公共機関について考え、今後の見直しを持つ。②	・町の様子に関心を持ち、いろいろな店や公共機関などに進んでかかわろうとしている。(発言)		
おこなう	・町探検の計画を立て探検先の人に手紙でお世話になることを知らせる。② ・グループ毎に町探検をする。②	・探検の計画や準備を進めてしようとしている。(計画書、行動) ・挨拶やインタビューなどをして、進んで人のかかわりを持つとうとする。(行動)	・グループのきまりやインタビューの内容などを考えることができる。(計画書) ・探検で見聞きしたことを工夫して表現することができる。(作品)	・町の人の、切な接し方や働いている人の様子に気がくことができる(カード)
ひらく	・探検発表会をする。① ・探検でお世話になった人に手紙を書き、挨拶する。①	・探検したことを意欲的にまとめようとする。(行動、発言)	・探検したことを分かりやすく紹介することができる。(発表、カード)	・町の人々や自分の様子に気がくことができる(手紙)

(4) 本時の指導 (10/11)

① 目標

探検してきたことを、自分たちが考えた方法で工夫して表現し、わかりやすく発表することができるようにする。

② 準備

児童…発表に使うもの

教師…相互評価カード・相互評価表(掲示用)

③ 展開

予想される児童の活動	形態	教師の支援と評価
1 学習のめあてを聞き、二つに分かれて発表会をすることを知らせる。	一斉	T1. 発表の場所や順番を説明する。 T1. 発表する時、聞くときのめあてを、しっかりと押さえる。 ・ 思いがよく伝わるように表させる。 ・ 他の班のかんばっているところを見つけ、カードに書きながら聞かせる。 T2. 子供たちのつづきや様子などを観察する。
2 二つに分かれ、それぞれで発表会をする。 ・ 聞いているグループは、発表のよかったところやがんばったところなどをカードに書く。	グループ	T1.T2 ・ 探検先の種類・表現方法などを考慮して、グループを二つに分ける。 ① 公共機関・店などが均等に分かれるようにする。 ② 紙芝居・劇・ペープサーなどの表現方法が均等に分かれるようにする。 ・ 発表のよいところは、認めめてやる。
4 振り返りカードを書き、次時の学習を知らせる。		T1. 今日聞けなかったグループの発表は、子供の考えに合わせ、のびのびルーム掲示するか、もう一度発表会を持つかを決める。 T2. 子供のつづきや様子を観察する。 ☆ 探検したことを分りやすく発表することができた。

保護者からのおたより

一 振り返りカードの活用(自己評価、相互評価)

どきどき 町たんけん

()

1 今日のたんけんは、たのしかったですか。





2 みんなとやくそくをまもって、たんけんができましたか。





3 インタビューやあいさつを、元気よくすることができましたか。





4 見つけたよ！びっくりしたよ！たのしかったよ！

ぎんこうカードがあるおみせは
おくらってしきを見ました。
本を見せたらカードが4つあるよ。
ぼうしカラーもおみせで買ったよ。
お金をかえるのがとても早かったよ。

どきどき 町たんけん no.2

()

1 元気よく、はっきりとはっきり言うことができましたか。





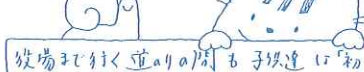
2 はかのグループのはっぴょうを、おわりまでしっかり聞きましたか。





3 友だちから、よかったところを聞いてもらいましょう。

--	--	--	--	--


 登場に行く道りの間も子供達に初
 めて登場に行く、と胸ワクワクしていた。
 目的地は安全に行きおくれ着くことが
 できた。
 登場にはいよいよ今日が来る。さうして緊張
 している様子が伝わってきた。部屋に迎え
 た。登場のサインが流れて落ちて聞いたら、
 自分たちで考えたいビデオも順番にエコー
 聞いていた。
 坂田のビデオを見せてもらう。登場の各台座
 を案内していた。おまじに、そのまえで
 もう少し元気で挨拶のポーズをするように思
 い出す（それと緊張しているように）。
 その次のセンターで連れて行く。しらぬ
 のめで見守りにして喜んでくれた。いろ
 うとよい不機嫌で、それは充実した探検とい
 いたい。

鑑賞指導における評価の在り方

所員下村哲也



1 鑑賞指導の在り方と評価

鑑賞指導の充実を図るには、まず計画的な鑑賞指導を年間指導計画の中に確実に位置付けることが求められる。鑑賞指導のみの授業時数としては、少なくとも年間時数の10分の1が必要とされる。また表現(制作)の領域においても、導入やまとめの段階に鑑賞を兼ねた学習を取り入れると、鑑賞的な内容の指導が年間を通して適宜可能となり、より効果的な学習結果が期待されるものと思われる。表現と鑑賞の活動は、それぞれに単体として機能するものではなく、常に両者は有機的に関連し合い相互に高め合っていくものと考えなければならない。

しかし、このような位置付けがなされていても、実態調査などからは、教師の話中心のやや画一的で、知識・理解などの認知面に重点をおいた指導の様子がうかがえる。当然のことながら、それは評価にも影響を及ぼす。生徒の主体性を促し個を生かすためには、多様な学習活動を取り入れなければならない。グループ活動や教育機器を利用した活動、またはワークシートを利用する活動、展覧会等の見学などそれぞれの学校の実態に応じた適切な指導方法が求められる。それらが実践されればそこで始めて、生徒のある一面にとらわれることのない個性の伸長につながる評価が可能になるものと考えられる。

2 鑑賞指導における観点別評価の具体化

評価においては、評価項目としての評価規準やまたそれに沿った評価の尺度としての評価基準の設定が不可欠になる。鑑賞指導においては前述の多様な指導方法を取り入れながら、このように指導と評価の観点を明確にすることが大切であると思われる。

これらの趣旨から考えられるのが観点別評価である。観点別評価が求めるものは、生徒一人一人の目的の実現であると考えられ、個々の目的はそれぞれに違ったものであり、そのために鑑賞における感じ方や味わい方も他とは異なるものである。ここでは中学校美術科における観点別学習状況の「鑑賞の能力」の中にさらに観点別の評価規準を作り、

「鑑賞における観点別評価」として評価の具体化を試みた。

観点別評価規準の作成に当たって留意したことは、鑑賞のみの指導の場合と表現の中で取り組む鑑賞的な内容の場合との評価場面の違いを明らかにすることである。鑑賞のみの指導の場合は、授業の一連の流れの中で、その時々々の個々の様子を評価の観点に基づき注意深く観察することが大切である。それは導入・展開・まとめのそれぞれの段階に、それぞれの観点をもつ評価が必ず存在するものと考えからである。これに対して表現の中で取り組む鑑賞的な内容の指導では、授業の中のある過程で重点的(または一時的)に行われるものと思われる。この点に留意して作成したものが、次項の表1、表2の「観点別評価規準とその評価基準」である。実際の指導では、これが題材の内容に即してさらに具体化されて活用されなければならない。

3 補助簿における観点別評価の活用

表1、表2の「観点別評価規準とその評価基準」は題材に準じてさらに具体的な内容や手段に置き換えられ、学習活動の中に活用されるが、その一つが補助簿である。これを活用する利点はその時々々の生徒の学習状況をおおよそ判断、評価できることにある。

補助簿の作成・活用にあたって考慮すべきことは、予測される生徒の活動をあらかじめ把握し、それに基づき具体的な内容の評価項目を設定することである。またそのためには評価場面もしっかりと定めておく必要がある。しかし複数の評価をその時間内に全員の生徒に対して実施するのは困難である。実際の評価は生徒が顕著な活動の有無を示した場合に限られるであろう。補助簿を活用する評価は、これを長期にわたり継続的に実施することで、その信憑性はかなり高くなっていくものと推察できる。次項の表3は、実際の指導の中で使用した補助簿である。これは学習指導案の指導過程の流れに従い、左側の評価項目から順に記入していくようにしたものである。指導の中でいくらかでも容易に評価が出来るよう工夫した。

表1 (鑑賞のみの指導における観点別評価規準とその評価基準(判定基準)例)

観点別評価規準(予想される評価項目)		評価基準(判定基準) A: 十分満足 B: おおむね満足 C: 要努力
導 入	○鑑賞の対象に興味・関心をもとうとする (関心・意欲・態度)	A: 対象のよさを感じ取り、共感的な態度をとる B: 形や色の美しさに気付き、自分の好みを表現する C: 対象を観察することなく、感想をもてない
	○鑑賞の対象の特徴を直感的にとらえたり疑問をもつことができる (発想・構想の能力)	A: 対象の特徴や疑問を即座に指摘し想像力をめぐらせる B: 対象の様子を具体的に表現、発表する C: 対象を自分なりに受け止めようとししない
2項目を省略		
展 開	○作者の心情や制作の意図をくみとり、作者の立場に立った作品のとらえ方をすることができる (鑑賞の能力)	A: 対象を通して作者の考えや思いを想像し表現できる B: 作者の考えや思いを知り理解を示す C: 対象から作者について感じ取ることが何もない
	○鑑賞の対象を主観的な立場でとらえ、はっきりした自分の主張をもつことができる (鑑賞の能力)	A: 対象を自分の考えでとらえ批評し他者に伝達できる B: 自分だったらこうするなど自分と比較する C: 自分なりの考えがもてない
ま と め	○他者の考えを受け入れ、さまざまな主張や考え方を知り認めることができる (鑑賞の能力)	A: 周囲の主張や考えに理解を示しさらに自分の考えを深める B: 周囲の主張や考えを受け入れる姿勢を示す C: 自分の考えに固執し共感的な立場を取れない
	5項目を省略	
ま と め	○学んだ内容を表現(制作)活動のための動機づけとして受け止めることができる (発想・構想の能力、創造的な技能)	A: 学んだ内容の有効性を表現活動の中に感じ取っている B: 学んだ内容が表現活動に活かされないか考える C: 表現活動との一体性を認識できない
	○鑑賞の学習効果を実感として受け止め自己変容へと結びつけようとする (関心・意欲・態度、鑑賞の能力)	A: 鑑賞活動の魅力を感じ取り自己実現の一助と考える B: 鑑賞活動を日常生活の一部と見なす意識をもつ C: 鑑賞活動を日常生活と関連付ける意識がない
1項目を省略		

表2 (表現の指導における鑑賞の内容の観点別評価基準とその評価基準(判定基準)例)

観点別評価規準(予想される評価項目)		評価基準(判定基準) A: 十分満足 B: おおむね満足 C: 要努力
導 入	○参考作品や資料などの対象を詳しく観察し表現の中に活かされる内容を探ろうとする (関心・意欲・態度、発想・構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力)	A: 題材の内容を理解して参考作品や資料等を十分に活用する B: 参考作品や資料等に見られる技法や工夫に気付く C: 参考作品や資料等の活用ができない
	1項目を省略	
展 開	○制作の過程を大切にし絶えず自分の作品に対して注意を払い関心をもち続けることができる (鑑賞の能力)	A: その時々々の出来具合を反省し次の制作に活かそうとする B: いつもていねいな制作ぶりがうかがえる C: 制作が雑で自分の作品を大切にできない
	○他者の制作の過程を参考にし肯定的・効果的に自分のものとして活かすことができる (発想・構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力)	A: 周囲から自分の思いにあった表現や技法を発見し活用する B: 周囲の助言を受け入れ制作に活かす C: 自己中心的な制作で周囲と共感し合うことがない
ま と め	○今までの制作を振り返り作品の完成状況を把握することで表現の出来映えを診断することができる (関心・意欲・態度、鑑賞の能力)	A: 絶対的・相対的な評価ができ作品の完成度を認識する B: 自分の作品について制作から完成までの感想を述べる C: 自分の作品について制作から完成までの反省ができない
	1項目を省略	

表3 (鑑賞のみの指導における補助簿の例)

指導過程	導入	展 開										まとめ	備考
		出会う	見つめ	感 じ 取 る	深 め る	鑑	鑑	鑑	鑑	鑑	鑑		
生徒氏名	関	全	関	発、創	関、鑑	関、鑑	鑑	発、創	鑑	鑑	鑑	関、鑑	
	を鑑賞資料に興味・関心をもとうとする	素直に感じたことを書き出す	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	意図や工夫を表現し、取り入れることができる	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	友達の意見を尊重し、自分の見方や感じとた	
1	A		A						C				活動の様子にムラあり
2	A	A	A				A			A		A	なかなか活発
40				A								A	
気 付 き	全体的に興味・関心が高い			説明がやや必要であった	気持ちよくなった	けっこう楽しんでいる	いい意味での反対意見がある	なかなか難しい様子	A子の意見がずいぶん説得力	これも難しい?	みんなよく書いている	※注 関;美術への関心・意欲・態度 発;発想や構想の能力	

平成7年度 佐賀県教育センター長期研修生一覧

NO	所属校	氏名(職名)	性	研究対象	研修領域	研究主題
1	本庄小学校	今 泉 弘 (教諭)	男	C:教育機器	小学校 C A I	進んで情報を活用し、意欲的に活動する児童を育てる理科学習指導の研究 —子供達がコンピュータを共同利用して作る「本庄生き物マップ」の開発を通して—
2	伊万里高等学校	中 島 元 昭 (教諭)	男	B:新学力観	高等学校 国 語 科	自ら進んで課題に取り組む国語科学習指導方法の研究 —単元学習の発想を生かした指導計画の作成—
3	鹿島高等学校	山 口 孝 (教諭)	男	B:新学力観	高等学校 地理歴史	生徒が主体的に活動する地理学習指導方法の研究 —シミュレーションの手法を取り入れた学習指導を通して—
4	唐津東高等学校	脇 山 知 彦 (教諭)	男	B:新学力観	高等学校 数 学 科	基礎学力の向上を目指す個に応じた数学科指導教材の開発 —生徒一人一人が自ら取り組む授業用教材の工夫—
5	唐津商業高等学校	野 崎 俊 吉 (教諭)	男	B:新学力観	高等学校 教育工学	興味・関心を抱き学ぶ意欲を育てる「簿記」の指導方法について —「簿記」の基礎・基本を重視した教材の開発を通して—
6	金立養護学校	山 浦 徳 子 (教諭)	女	B:新学力観	県立学校 特殊教育	障害児の「かず」の概念形成のための発達段階に即した指導の研究 —発達段階に対応した重複障害児の「かず」の学習内容表の作成—
7	赤松小学校	北 村 勢 子 (教諭)	女	B:新学力観	小学校 国 語 科	豊かな思考力や想像力を育てる単元学習指導の研究 —文学的文章における「一次感想」の活用を中心に—
8	鹿島小学校	井 上 俊 明 (教諭)	男	B:新学力観	小学校 国 語 科	主体的に読み深める力を育てる国語科学習指導 —読みの思考力を高める段階的説明文学習を通して—
9	大山小学校	岩 永 敏 (教諭)	男	B:新学力観	小学校 算 数 科	自分の考えを豊かに表現する力を育てる算数科学習指導方法の研究 —表現様式を変換する場の設定を通して—
10	三田川小学校	米 倉 正 彦 (教諭)	男	B:新学力観	小学校 理 科	一人一人が意欲的に自然にかかわり、問題を追求する理科学習指導の評価の在り方 —関心・意欲・態度の自己評価を中心に—
11	山代東小学校	長谷川 晃三郎 (教諭)	男	B:新学力観	小学校 理 科	一人一人が進んで自然に働きかけ探究し続ける児童を育てる理科学習指導の研究 —発想を生かす場「見つけたい、確かめたい、試してみたい」を取り入れて—
12	春日小学校	豆 田 幸 彦 (教諭)	男	B:新学力観	小学校 生 活 科	自分の思い入れを進んで表現する子供を育てる生活科学習指導 —他教科の表現活動との関連を通して—
13	若基小学校	緒 方 克 成 (教諭)	男	A:学級経営等	小学校 特別活動	適応能力を高める学級活動指導法の研究 —適応指導における自主的な活動の場を通して—
14	明倫小学校	馬 場 弘 子 (養護教諭)	女	A:学級経営等	小学校 教育相談	自分らしく生きようとする子供への支援の在り方を求めて —遊戯療法における行動観察表の活用を通して—
15	本庄小学校	瀬 尾 裕 子 (教諭)	女	D:今日的課題	小学校 特殊教育	学習障害児等の教育的ニーズに対応した教育的援助の在り方について —認知能力の特性に着目した個別指導計画の作成と実施—
16	西唐津小学校	大 西 勝 己 (教諭)	男	C:教育機器	小学校 C A I	自ら自然に働きかけ進んで問題解決に取り組む児童を育てる理科学習指導方法の研究 —小学校6年理科「大地のつくり」の学習を支援するソフトウェアの開発を通して—
17	平原小学校	古 川 雪 (教諭)	男	C:教育機器	小学校 C A I	へき地・複式学級において豊かな発想や構想を生かした表現ができる子どもを育てる指導方法の研究 —図画工作科鑑賞学習にコンピュータを取り入れて—
18	西溪中学校	坂 本 和 子 (教諭)	女	B:新学力観	中学校 国 語 科	個を生かして豊かに読む説明的文章の研究 —「ことばの連鎖」をつかむ学習活動を通して—
19	東部中学校	中 野 宗 利 (教諭)	男	B:新学力観	中学校 数 学 科	数学的な見方や考え方が育つ指導方法の研究 —発問の工夫とヒント集の作成を通して—
20	鳥栖中学校	坂 本 由 美 (教諭)	女	A:学級経営等	中学校 特別活動	自己肯定感を高める学級集団づくりの研究 —全員に出番のある活動を通して—
21	伊万里中学校	松 尾 文 雄 (教諭)	男	A:学級経営等	中学校 道 徳	一人一人の道徳実践力が高まる「道徳の時間」の指導法の研究 —「統合的な道徳教育」による展開を図って—
22	大和中学校	野 北 弘 (教諭)	男	C:教育機器	中学校 C A I	環境問題に関心をもち自ら進んでこれに取り組む生徒を育てる理科学習指導方法の研究 —インターネットにより環境情報を収集し活用する学習活動を通して—
23	塩田工業高等学校	梅 崎 浩 正 (教諭)	男	D:今日的課題	高等学校 英 語 科	意欲的に「聞く」「話す」態度を育てるオーラル・コミュニケーションAの指導法の研究 —活発な言語活動を行うティーム・ティーチングの工夫—
24	大和養護学校	御 厨 洋 子 (教諭)	女	D:今日的課題	県立学校 特殊教育	障害のある児童が学習に主体的に取り組む姿を引き出す指導方法の研究 —一人一人の特性に応じた教師の援助の工夫を通して—
25	伊万里養護学校	山 副 智 広 (教諭)	男	D:今日的課題	県立学校 特殊教育	自閉的傾向を持つ子供の適応行動を促す指導の研究 —動作法を通じた人間関係の基盤作りを中心にして—

平成7年度

受講者の声と講座風景

人としての生き方を考える環境教育

—環境教育講座を受講して—

鳥栖市立鳥栖北小学校
教諭 居 石 憲

現在私の勤務する学校は、市の中心部にあり、学校のまわりが自然環境に恵まれているとは言えません。そうした中で、環境教育を実践していくヒントがあるのではないかと、本講座を受講しました。

私は、これまで「環境教育」という言葉を聞くと、環境問題の学習、自然愛護等のイメージが強くありました。しかし、講師の先生の話の間で、環境教育は、人も、物も、自然も、子どもたちとのかかわりのあるすべてのものと結び付いていることがわかりました。たとえ市街地の学校であっても、地域での空き缶拾い等を通して、子どもたちは地域社会という「環境」とかかわり合います、これによって、子どもたちは身近なゴミ問題を直視することから始まり、様々な環境と調和しながら、より良く生きる生き方、自ら考えていく力を伸ばしていくことへとつながっていきます。「環境教育は自然科学の分野から、道徳教育に移った。」という言葉もとても印象に残りました。

また、「環境教育」は特定の教科・活動にとらわれず、教師の創造力が生かされる分野です。子どもたちに様々な体験をさせ、身近な問題意識と小さな実践を積み重ねながら、「環境教育」に取り組んでいく必要性を感じさせる講座でした。



環境教育講座

「中学校英語科(コミュニケーション)講座」

を受講して

福富町立福富中学校
教諭 日 野 順 子

「お久しぶり。」「やっぱり来ましたね。」今年も会えた常連の先生方。8月1日、私にとって夏の行事のひとつになった、英語科コミュニケーション講座が始まりました。

毎年できるだけこの講座に参加するようにしていますが、それでも初日はどのような内容だろうかと期待半分不安半分という感じです。でも自己紹介やALTとのディスカッション等が始まると、不安はどこかへ消えてしまいます。とにかくこの講座は言わなきゃ損、発言しないと力にはつかぬとばかり、皆競って発言し、活動に参加しています。

少人数の講座がさらに5人位のグループに分かれ、初日はグループ活動、2日目はティームティーチング、3日目はディベート、4日目は聞く、書く、話すためのプログラムと、毎日盛り沢山の内容に、忙しくも楽しい4日間です。TTやディベートでは、自分の発想の貧困さ、語彙力のなさを嘆きながらも、鈍い頭を鍛えられて、非常に有益な活動です。

この講座の最大の特徴は、笑顔にあふれていることです。わかりやすくユーモアもまじえて指導して下さるALTの方々、ジョークをとばす受講生。間違いを恐れず、失敗を気に病まず、いい意味で「通じればいいんだ」と肩の力を抜いて安心して話すからこそその「笑顔」だと感じます。まだこの講座を受けたことのない先生方、来年は受けてみられませんか。



中学校英語科(コミュニケーション)講座

「中学校技術・家庭科(食物指導)」 講座を受講して

佐賀市立鍋島中学校
教諭 松本 万寿美

食に関する情報があふれている今日において、情報を正しく取り入れる必要性を痛感しています。体調をくずしやすい生徒が年々増加するなかで、栄養のバランスのとれた食事をする方法をどのように教えたらよいか日々思案しています。家庭科の教師にとって、センター講座は情報を収集するのに最適なものです。

本講座を受講して、栄養のバランスをとるための方法として教材のヒントになったものがあります。一つは“主食+主菜+副菜+副々菜”の組み合わせと、もう一つは“根のもの、茎のもの、葉のもの、実のもの”の組み合わせということです。実際の食生活の中においても、食べた種類を数えるよりもはるかに理解しやすいので取り入れてみようと考えています。

また、イリスで最新設備の調理室をお借りして現代の食生活を改善した調理実習は本講座ならではのものでした。生徒が目を見張って実習に取り組む理由を納得することができ、自分自身も学生時代に戻った気分になりました。

最後に、受講して“家庭科は生徒に生きることを教える素晴らしい教科である。”ということを確認しました。佐賀女子短期大学の緒方先生の言葉が印象に残ります。「人間の生きる根拠を学べるのは家政学(生活学)である。」

今回の講座で学んだことを十分に生かして行きたいと思います。



中学校技術・家庭科(食物指導)講座

「マルチメディア機器の活用」 講座を受講して

佐賀県立厳木高等学校
教諭 谷田 靖彦

昨年度、私は厳木高校で視聴覚の担当をしており、本校の学校紹介ビデオの制作をしました。本年度の教職経験者研修会(5年研)で講座を選択する際にビデオの制作方法やマルチメディア機器の利用方法が学べるということで本講座を受講しました。一応パソコンは持っていますが、主にワープロや成績処理にしか使っていなかったもので、新しいソフトや教育ソフトのことも学ぶことができ、大変勉強になりました。

パソコンを使った講座では、Windowsに組み込まれているソフトを利用して、パソコンに音声や画像を取り入れる方法を学ぶとともに新しいソフトや様々な機能のソフトを知ることができました。パソコンの幅広い活用方法を知ることにつれて、日常生活においてもパソコンをもっと利用すべきであると実感しました。

また、ビデオ制作の講座においては、文字やBGM、編集の方法がこんなにも簡単にできるかと驚きました。私が学校紹介ビデオを制作した時は、生徒達と2週間という時間を費やしましたが、本講座で学んだ各種機器をうまく活用すれば1日で制作できたのではないかと思います。

3日間という短期間ではありましたが、新しいことが数多く学べたことや担当の講師の方々には優しく丁寧に指導して頂き大変感謝しております。ありがとうございました。



マルチメディア機器の活用講座

佐賀の歴史散歩

『葉隠』

— 万人のための、そして何びとのためのものでもない一冊の本 —

はじめに

徳川時代の武士の生き方には、2つの大きな流れがあった。1つは、社会の変化に伴って新しく武士の間で自覚・反省された社会的・政治的指導者としての儒教的な「士道」の立場であり、今1つは鎌倉・戦国以来、武士の間で培われた主君への献身的愛情に、理非を超えた絶対的な意義を認める葉隠流の「武士道」である。両者は極めて対照的な武士の在り方を示すが、一己の武士の中にも矛盾する生き方として緊張しながら同居する場合もあった。江戸期を通じて幕府のみならず佐賀藩においても儒教(主に朱子学)を武士の教学として採り上げる立場が主導的であった。幕末期は「佐賀人士の教育の主眼たる者には楠公も居れば漢学らしい者も」いる一方で「葉隠主義」…と云ふ一つの学派が出来(副島種臣 1828~1905)ていて、正統的な朱子学思想、あるいは朱子学の名分論から発した尊王思想のほかに、依然として葉隠流の武士道が藩士の心を強く捉えていたことが分かる。

1 『葉隠』の成立

さて、『葉隠』は、城北黒土原に出家・隠棲していた山本常朝(やまもと じょうちょう 1659~1719)が語った言葉を、7年間にわたって田代陣基(たしろ じんもと 1678~1748)が筆録した全11巻の聞書であり、宝永年間(18世紀初頭)に成立したものである。内容は、教訓、歴代藩主に関すること、諸藩士の言動及び他家の話等々1300余の項目からなるが、全巻を常朝が語ったと言うより、常朝が口述し陣基が筆録・編集したと言うべきであろう。ともかく『葉隠』の中心思想は、聞書一、二の中に大かた語り尽くされている。

2 純一無雑の追求

ところで、武士には2つの側面があった。すなわち、主従関係の枠内で捉えられる奉公人としての側面(奉公)と、主従関係を包摂しながらこれを超越して直立する戦闘員としての側面(武篇)である。「武士道と云は、死ぬことと見付けたり」という有名な一句はこの両面をもつ武士が、生か死か最後の決断を迫られたときのきわどい身の処し方について発せられた言葉であり、この場合、もはや人間には的確な判断を下すことは不可能であるという認識の下に、速やかに死に切って死地に突入することを勧める。これこそが武士を恥から救う唯一の途であり、人間の内面に巣くう癒し難い自愛(私)の念から自由になる途である、と主張する。

さて、主従関係を超越して直立する武篇とは、常朝が取り上げた〈喧嘩〉にその例証を見ることができる。彼にあっては、およそ喧嘩の有効性を問うことは無意味であった。相手がいかに

多勢であり、また大切な主君の家来であっても、直ちに踏み込んで倒し(または倒され)、死狂いするまでであった。赤穂浪士の討入りにしても、彼らの行為が義に適ったものか否かは関心事ではなく、ただ策に走り迅速性を欠いたことを厳しく批判し、その動機の純粋性に疑いを持った。

次に、主従の枠内で捉えられる奉公、すなわち太平の世における主従関係とは何か。主君への諫言こそ最大の忠節と考える常朝は「奉公人の至極は、家老の座に直り(殿に)御意見申上(奉公名利) げることだと説く傍ら、「諫と云詞、早私也」(かんといふことは、はやわたくしなり)として利己的な動機からの忠義だてを厳しく指弾する。つまり、自己一身の名利(名誉・利益)のため自らの才覚を恃んで巧に立ち回り、主君が隠居したり死去したりする段になると素早く保身に転じ「出る日の方を向」いて生き残るための画策に走る奉公人を、常朝は許さない。忠の義のと尤もらしい理屈を詮索するのは、儒教的な士道の立場である。常朝は、ただ「無二無三」に主人を「歎」き「無理無体」に奉公好きになった武士の生き方に奉公人の本来の姿を見る。それは、恋(忍恋)の心入れと同じだと言う。恋愛感情の極致が「私」を殺した徹底した自己犠牲の上に成り立つ献身にあるとすれば、それはまさしく主君に志を立てる奉公人の姿勢にはかならなかった。奉公の志とは心に一物も蓄えない純一無雑の境地を限りなく追求することであり「奉公一片」「武篇一片」になりきって「正念」を持すことである。忍恋がもはや地上のものでない以上、『葉隠』が捉えた君臣関係も永遠に成就されることのない献身の道徳であった。

3 『葉隠』と超越者

『葉隠』は、「狂」において自覚されたような凄まじい生き方を説く一方、人間関係における繊細な思い遣りを勧める。また、徹底した自己否定と同時に飽くなき自己肯定を説く。この矛盾する両極な性格とその両極の上でのきわどい統一的な緊張感—これは一体どこからくるのか。常朝の師で儒者の石田一鼎(いしだ いっぺい 1629~93)は、人間の営みである相対的な判断や意識的な努力から出た行為はみな偽りである。したがって人間は「仏神三宝の誓願海に入って無量の功德を得」るとき我意(エゴイズム)から自由となる、と云う。「大慈悲をおこし、人の為になるべく候事」(四誓願の一つ)とは、我々不完全な人間は、神ならぬ或る絶対的な超越者に帰順して生きよ、ということであろうか。

(所員 池田 渉)

新聞で学ぶ力を育てる

～NIEってどんなもの？～

Newspaper in Education

NIEとは？

NIEとは、発祥の地、米国で使われている Newspaper in Educationの頭文字をとった言葉で、日本では「教育に新聞を」と訳しています。学校や家庭、そして社会での教育の場で新聞を活用しようという活動です。これまでも、特別にNIEなどと言わなくても、新聞を活用した教育は行われていました。しかし、これらは個人の試みでした。NIEが、従来の新聞活用と違うのは、学校と新聞界が協力して新聞活用の方法を研究し、その成果を組織的に共有・発展させていく点です。

発祥の地米国でのNIEの歴史は古く、1955年、青少年の活字離れを憂慮したアイオワ州の地方新聞社が米国教育協会と共同で取り組んだ「教室に新聞を」(NIC)運動が、組織的にNIE活動に取り組んだ最初とされています。

日本では、1985年に新聞界で初めて、NIEが提唱されました。その後、NIE専門部会を設置し、マニュアル作成やパイロット計画の推進を行ってきました。パイロット計画とは、新聞界が経費を負担して、一定期間、毎日、教室に複数の種類の一般日刊紙を置き、子供たちに自由に触れてもらうとともに、教師の教材として活用してもらうことを目的としたものです。95年度には、全国で112校のパイロット校が決定しています。

佐賀県では、平成7年1月24日に、県内に本社・総支局を置く日本新聞協会加盟の新聞6社で構成する佐賀県NIE協議会が発足しました。また、県内のパイロット校は、鍋島小、城南中、城西中(昨年度より継続)の3校となっています。

様々な新聞活用の実践

ここで、新聞を活用した実践例をいくつか紹介します。

国語の音声言語指導の領域で、4コマ漫画の吹き出しの部分のカットしたものを使って、話す指導をしたり、バラバラにしたものを並べ替えたり、中学校の英語でも、それを活用して、コミュニケーション能力の育成に役立てています。また、天気図や月の満ち欠けの図を切り抜

いて、ノートに貼っていけば、理科の資料としても使えます。現在、話題となっている社会問題を論題としたディベートでは、資料として活用したり、新聞広告を例に、デザインやポスターの制作の導入に使ったりと様々な教科での活用が考えられます。

このような教科の中だけでなく、朝の会での1分間スピーチにおいても、自分が選んだ記事をもとにしたスピーチを行うこともできます。

新聞活用の効果

様々な新聞活用の実践を行うことにより、次のような効果が期待できます。

第一に、新聞を教材として使うことで、教科書と現実の出来事を結びつけて考えられるようになります。

第二に、情報化時代における学ぶ力が身につきます。新聞を読み慣れてくると、たくさんの情報の中から、自分の欲しい情報を選ぶ力がつき、情報収集能力が高まります。

第三に、新聞を活用することで、それぞれの家庭でも、記事の内容について、話し合う機会ができ、学校と家庭の結びつきが出てきます。

このように、新聞を活用していくことは、自ら学ぶ力を育てるために効果的と考えられます。

(所員 平田陽介)

詳しいNIEの実践について知りたい方は、下記のところに問い合わせてください。実践事例集等を紹介していただけます。

【問い合わせ先】

〒100 東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル7階

日本新聞協会

☎03(3591)3466

教育相談Q & A

再登校へ向けて!!

～専門機関との連携～

Q: 現在の学年になり、2か月ほどたった頃から登校をしづらくなり、夏休み前から登校できなくなりました。

2学期になっても登校する様子はなく保護者の希望もあって、専門機関への相談を始めました。本人と保護者は、定期的に相談を続けていますが、このような子どもに、担任としてどう関わってよいのかとまどっています。

よく「専門機関との連携」と言われますが、実際にはどのようなことに留意したらよいのでしょうか。

A: 最近、登校拒否等で専門機関へ相談するケースが増えてきています。クラスの子どもが、確たる理由も分からないまま不登校状態になれば、担任としてとまどい、不安になることもあるでしょう。ましてや、同僚や学年主任等に相談し、いろいろな関わりを試みても、あまり変化が見られないとなると、不安が大きくなりますが、専門機関への相談が始まることで、気が楽になり、何となく肩の荷がおりたような感じになるかもしれません。

また一方で「専門機関との関わりが始まったのだし、学校や担任が関わることで、その関係をくずすことになりはしないか。しばらく任せておいたほうがいいのではないか。」という気持ちになってくることもあり、学校や担任としてどのように関わっていったらよいのかというとまどいも出てくることでしょう。

確かに、専門機関との関わりを大切にし、それをくずさないようにするという配慮も必要なことではありますが、やはり学校としてどう支援していくかということが、さらに大切なことだと思います。

そこで、「連携・協力」ということが必要になってきます。

専門機関での相談が始まると、しばらくは本人や保護者との関係づくりがなされます。約1か月ほどして、相互の関係づくりができた頃、学校(担任)から担当者へ連絡をとって、話し合いの時間を持ってみてはどうでしょうか。

そのときに、次のようなことを話題にし、じっくりと話し合ったり、自分自身を振り返ってみたりしながら理解を深める努力をすることで

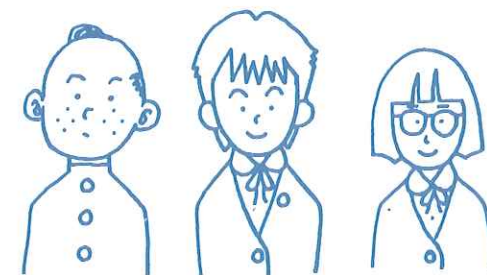
よりよい連携・協力ができていくのではないかと思います。

- その子どもや保護者とのこれまでの関わりをふり返ってみて、自分自身どのように感じられるのか。
- 今のその子どもの状態や保護者の様子がどのように見え、そのことに対してどのように感じているのか。
- 担任として、今、その子どもや保護者に対して、どのような支援をしたいと考えているのか。そこで考えられる問題は何か。
- 今のその子どもの状態に応じた支援の仕方として、どのようなことが考えられるのか。また、支援していく中で問題となることはどんなことか。
- 専門機関での担当者はその子どもをどのようにみているのか。また、どのような対応の方針に基づいて相談活動を行い、今後続けていこうと考えているのか。

さらに、中・高生になると、進路に関する課題が加わってくることも考慮しなければなりません。

進路のことについては、専門機関よりもむしろ学校の支援や指導が、本人にとって大きな力となってくるはずです。担任を中心とした学校全体での支援体制づくりが不可欠になってくるでしょう。

いずれにしても本人が自立し、自分自身で諸問題を乗り越えていけるよう支援するというのが、学校にも専門機関にも共通して求められる基本的な姿勢ではないでしょうか。



図書資料室ガイド

購入図書のご案内

教育センターが今年度購入しました図書の一部を紹介します。今回は300冊以上の図書を購入しましたが、先生方の実践や研修のお役に立てればと思っています。

名 教 科			
	書 名	著 者	出 版 社
1	評価基準表 小学校1～6年	北尾倫彦	図 書 文 化
2	「関心・意欲・態度」の評価技法 全6巻	北 俊夫	明 治 図 書
3	新しい学力観に立つ国語科の学習指導と評価	小森 茂	明 治 図 書
4	中学校社会科のティーム・ティーチング	澁沢文隆	明 治 図 書
5	算数・数学教育 実践的研究のすすめ方・まとめ方	飯島康男	東洋館出版
6	新学力観に立つ理科考え方 細案1～8	奥井智久	明 治 図 書
7	丁寧な英語 失礼な英語	藤 原宏 他	東洋館出版
8	美術鑑賞の授業	野島光洋	明 治 図 書
9	生活科の支援発問&体験活動カード事典	中野重人 他	明 治 図 書
10	中学校技術家庭 観点別学習状況の評価規準表	北尾倫彦	図 書 文 化
11	小・中・高等学校で「家族家庭生活」をどう教えるか	中間美砂子	家政教育社

道 徳 ・ 特 別 活 動			
1	道徳教育論	林田 昇	ミネルヴァ書房
2	道徳の授業理論	押谷慶照	教育開発研究所
3	新しい特別活動の指導と評価	成田國英	教 育 出 版
4	学級活動の指導過程 (小学校低学年・中学年・高学年)	成田國英	明 治 図 書

教 育 相 談 ・ 特 殊 教 育			
1	教師と生徒の人間づくり 第2集～第4集	國分康孝	歴々社
2	カウンセラーの自己訓練	広瀬米夫	岩崎学術出版
3	学習障害児の教育	上野一彦 他	日本文化科学
4	学習障害の診断と指導	伊藤隆二	岩崎学術出版

情 報			
1	FMSの設計	古賀久雄	日 刊 工 業
2	計測の自動化とロボット	計量管理協会	コ ロ ナ 社
3	パソコン活用大百科	赤堀侃司 他	実 教 出 版
4	誰もが身につけたいコンピュータの授業活用	全教連	ぎょうせい

環 境 教 育			
1	環境教育シリーズ 5巻	大木佐武郎	東海大学出版
2	環境教育ハンドブック	全国小中学校環境教育研究会	日本教育新聞
3	環境教育ガイドブック	佐島群己	教 育 出 版
4	環境問題の教材開発と授業	有田和正	明 治 図 書
5	新しい学力観に立つ環境教育	滋賀環境教育研究会	東洋館出版
6	日本の絶滅の恐れのある野生動物 脊椎動物編	環境庁	日本野生生物研究センター
7	日本の絶滅の恐れのある野生動物 無脊椎動物編	環境庁	日本野生生物研究センター
8	環境教育実践事例集	第一法規	第 一 法 規

国 際 理 解 教 育			
1	国際理解教育と教育実践	国際理解教育刊行会	エムティ出版
2	異文化理解のストラテジー	佐野正之 他	大 修 館
3	異文化理解教育読本 No.118		教育開発研究所
4	国際理解教育のキーワード 基本概念・用語の解説240ポイント	原田種雄	有 斐 社
5	国際化社会の教育	田中圭治郎	昭 和 堂

平成8年

世界・焔の博覧会実行委員会会長

新年のごあいさつ

新年、明けましておめでとうございます。
皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。
さて、佐賀県では、本年7月19日から87日間にわたり、九州では初めてのジャパンエキスポとして「世界・焔の博覧会」を開催いたします。
この博覧会では、「やきもの」を媒介として“自然と技術”“技術と生活文化”“地域文化と産業”などの様々な関係を見直し、問い直ししながら新たな時代を展望していきたいと考えております。
博覧会の準備状況につきましては、これまで日本や地域を代表する24企業・グループの様々なパビリオンの構想や、会場を華やかに飾るタレントや海外催事などの内容も固まりつつあり、開幕に向けた準備も着々と進んでおります。
また、やきものの展示につきましては、世界6か国、19の博物館・美術館から歴史的な名品・逸品が佐賀に集うほか、“叩きの技法”や“野焼き”について海外から陶工を招いて製作実演を行うなど、ジャパンエキスポ博覧会として十分に満足いただける企画準備を進めているところであります。
本年の元日は、博覧会の開幕まで丁度200日前という大きな節目に当たりますが、今後とも博覧会の成功に向け、より一層邁進してまいりたいと存じます。
どうか皆様方におかれましては、博覧会開催への御支援、御協力をお願いするとともに今年夏はご家族お揃いで「世界・焔の博覧会」へ御来場いただきますようよろしくお願いいたします。
今年の皆様方の御多幸並びに御活躍をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

世界・焔の博覧会実行委員会会長 井 本 勇

《お知らせ》

学校で作成された「研究紀要」「研究のまとめ」を佐賀県教育センターまでお送りいただけないでしょうか。当センター図書資料室に保管して、活用させていただきます。

発行 佐賀県教育センター
〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

<4-67>